島のひろば
第７０５号
「島のひろば」編集委員会電話　04992-2-8256
くらしの相談は共産党町議団へ
小池2-9318　山田2-3670
酒井090-4545-0032

高市強権政治を許さない

民主主義も人権も壊す

悪法にNO!!

国民生活そっちのけ

イラン戦争による原油やナフサの不足で物価高騰が止まらず、暮らしも営業も深刻さを増しています。いま、政権が最優先でやるべきことは、国民の生活を支援する具体的な対策です。しかし、成立した補正予算には具体策はほんのわずかしかありません。

高市政権は国民が望んでもいない改憲に突き進み、戦争国家づくりの悪法を次々と通そうとしてきています。

多様な民意を切り捨てる「比例定数削減法案」

最も民意を反映する比例定数のみを削減すれば、多様な民意が切り捨てられ、民主主義の破壊につながります。

野党各党が一致して反対しているだけでなく、「定数削減は地方の切り捨てになる」（全国町村会）など、地方からも反対の声が上がっています。

思想・内心の自由、表現の自由を侵す「国旗損壊処罰法案」

国旗への思いは人それぞれで、「自国の国旗を大切に思う」ことは「一般的な国民の感情」とは言えません。戦前、侵略戦争の手段として使われた日の丸への嫌悪感を抱く人も少なくないのです。

憲法が保障する表現の自由、思想・信条の自由を侵害する違憲立法です。

高市政権の戦争する国家づくりと軌を一にする、憲法違反の「国旗損壊罪」は廃案しかありません。

女性天皇はダメ・憲法違反の「皇室典範改正案」

成立した改正案では、皇位継承は男系男子を不動のものとし、女性天皇を最初から排除しています。

しかし、どの世論調査をみても、7～8割が女性天皇・女系天皇を支持しています。

憲法第1条は、「天皇は日本国民の象徴であり、～この地位は、主権の存する日本国民の総意に基づく」と定め、14条では性による差別を禁じています。

日本共産党の田村委員長は、「憲法に関わる重大法案を数の力で押し通すことはあってはならない。憲法を守れという立場でたたかい抜く」と表明しました。

六月議会一般質問

六月議会で行った共産党酒井周議員の一般質問を紹介します。

消防水利の改善について

酒井　周

今年の4月19日、差木地で火災が発生、火災現場近くには防火水槽が無く、数百㍍ホースを伸ばし消防ポンプ車、可搬式ポンプで中継しながら消火栓から水利を取ろうしたが距離が長くその消火栓からは十分に水圧を上げ放水することができなかった。結局、本来使用目的が異なる農業用貯水池から取ることができたが、消防機材を入れることを前提としていないため設置に苦労し放水開始は消防団招集のサイレンから1時間以上かかった。その火災現場付近には、


酒井　周 議員

お知らせ

本紙連載の時得孝良氏の「大島文学・紀行散策」が本になりました。

連載第1号から５５５号までを著者と藤井虎雄氏（藤井工房経営）との共同で、復刻版ではなく、新たに編集し直して刊行したものです。

本紙連載はまだまだ続きますが555号という一区切りになったところで本にしようとしたものです。

頒価：2,500円

元町藤井工房にて販売いたします。

連絡先　090-4026-0645

数軒の民家があり、民家で火災が発生すれば人命にかかわる重大な問題。消防団員も減少する中、速やかな消火活動を行うためには水利の充実が大きな力になると感じる。

大島町でも定期的に防火水槽の増設や水槽が装備されたポンプ車の導入など水利の改善にも尽力されているが、消火栓は消火に必要な水圧を得られないことがあり、近隣住宅の水道水へ影響を与える場合があるためできれば使わないという指示もある。いざという時に消火活動に差し支える。

消防団は定期的に消防水利を点検し、保守作業も行っているが火災時に水利、特に防火水槽が十分にあるかどうか不安を感じている。

そこで質問します。

どれくらいのペースで防火水槽の増設が行われていますか？現状の防火水槽増設のペースでは十分に水利を確保できないと感じており、防火水槽増設の計画策定を求めます。

消防長答弁

防火水槽について、現在大島町には貯水槽15基、防火水槽107基、耐震性貯水槽19基の計141基の防火水槽があり、それ以外にも指定水利・緊急水利としてプールなどもあります。

平成18年度からは、耐震性の60ｔの貯水槽を1年に1基の計算で、3年に1度3基ずつ整備している。もっとペースを上げてとおっしゃるご要望は分かりますが、計画通りに、また見直しを図りながら、常備消防の拡充、消防団の詰所や車両等の更新等を進めております。

防火水槽の新設には、用地確保や予算面の問題等もございます。背負い式消火装置や水槽付きポンプ車の購入、仮設水槽の配備、ミキサー車との応援協定などを実施し、対策しております。消防団の方々には、自らの危険を顧みず、本当に大島町住民の生命・身体・財産を守るべく消防団活動へのご尽力にたいしまして、改めてお礼を申し上げます。

町長答弁

防火水槽の設置については、地域防災力の強化において重要な課題と認識しています。予算の確保や適切な設置場所の選定には十分な検討が必要であり、増設を早急に進めることが難しい現状について、ご理解を頂きたい。防火水槽の設置には多額の予算が必要であり、これまで通り限られた予算のなかで計画的な整備に努めます。設置場所の選定については、優先度等を考慮し、また国や都の補助金活用も含め財源確保にも努めます。

酒井（席上から）

今回は消火栓を使うことを前提とした場所であったが民家も4～5軒あった。例えば間伏の配水池にホースをつなぐバルブがあればなんとかできたかもしれない。他にも何カ所か防火水槽はないが配水池がある場所で水を取れるように出来ないでしょうか？人命にかかわることなのでしっかりと防火水槽の予算措置をしてください。



大島文学・紀行散策

拾遺編

吉行淳之介「島へ行く」　七562時　良孝得

「島へ行く」に登場する男・の向こう側は立ち入り禁止となっている。

彼女・少年が三原山火口をめざす場面の続きを引用紹介し、吉行編を終わることにしたい。

《火口の近くに、小さな砂漠がある。登山客は、その場所で馬を下り、ラクダに乗ってこの砂漠を横切り、あとは徒歩で火口に近づくのである。

ラクダの背には、四人の人間が座れる形の籠がくくりつけられてあって、彼女は男とその息子と一緒に一匹のラクダに乗った。（中略）砂漠が尽きて、彼女たちはラクダを下りた。歩いてゆくと、斜面が急に勾配を烈しくして、その尽きるところが火口である。火口のまわりには粗末な木の柵が張りめぐらしてあって、そ

火口壁の内側の色が絶え間なく揺れ動く白い薄い煙を透かして、ちらちら濃淡の度合いを変えながら、彼女の眼に映ってくる。硫黄の蒸気のにおいが、彼女の鼻腔に流れ込んでくる。

彼女は靴の裏をへだてて、溶岩に覆われた地面の凸凹をするどく感じ取った。自分の足が、その地面を蹴って火口目指して走り出してゆく光景が、ちらりと彼女の脳裏を掠めた。

そのとき、彼女は手首に強い力を感じた。視線落とすと彼の五本の指がしっかりその部分に巻きついているのだ。

（以下略）